

2009年4月29日

平成21年度 全日本選手権大会ルネッサンススピーチ
長谷川 博之



皆さん、こんにちは！

ただ今ご紹介いただきました長谷川博之と申します。

今日は、私にとって最も思い出深い全日本選手権大会の会場において、私が学んだ素晴らしい柔道について、皆さんにお話をする機会を与您いただきましたことを感謝申し上げます。

さて、私がみなさんにまず申し上げたいことは、「一本取る柔道」を目指すということであります。昨年行われた北京オリンピックにおいて、日本選手は合計7個のメダルを獲得する大活躍をいたしました。

特に日本選手の「一本を取る」ダイナミックな柔道は、日本人ばかりでなく、全世界の人々に感動と柔道本来の魅力を存分に示してくれました。そして、世界の柔道も審判規定を改定し、ようやく技を重視する方向へ転換を図ろうとしています。その陰には、日本選手の一本を目指す美しい技が、大きな力となったものと推測できます。なぜなら、一本を目指す美しい技は、柔道の醍醐味であり、人々に感動を与えます。この感動なくして柔道の発展はあり得ないと思います。日頃の稽古を通じて、一本を目指す美しい技を身につけて下さい。

次に私が申し上げたいのは、品格ある柔道を目指すということであります。

柔道の品格は、美しい柔道の姿で、正しい礼と服装を乱さない心構えによって培われると私は思います。礼法については、いつも言われていることでもありますから、今回は省略いたします。ここでは服装について申し上げます。最近、柔道衣の上着が帯からはずれても気にも留めない人が多くなっているように思われます。

稽古で投げられた時、あるいは試合で場外から場内へ戻るときなどのわずかな時間にさりげなく前をあわせる心構えが、柔道の品格を高めることになると思います。

品格のある柔道は、必ずや品格のある人間性を育てます。柔道を通じて社会が求める思いやりのある素晴らしい人材が育つことを念願し、私の話を終わります。

ご静聴、誠にありがとうございました。